

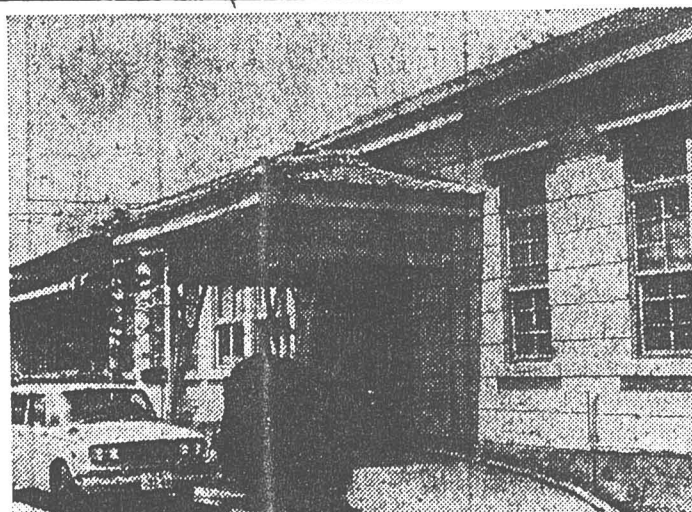
付属病院を閉鎖

7月から 組合側は反対

水社
チッソ支
チ侯

水俣市のチッソ水俣支社はこのほど、七月一日付で付属病院閉鎖の具体案をチッソ新労、新日窒労組との団交の席上発表した。それによると、病院従業員六十五人のうち四十五人は他の医療機関への就職あっせん、残る二十人は退職勧誘するという案、これに対し、同労組とも「病院存続」という態度で一致し、会社案に異議向から反対しており、今後存続をめぐる健康管理に当たった。

しかし、最近の医療技術の進歩から、総合病院の規模は大きくなければ、経営的にも困難になった。とくに、水俣地方では昭和十八年から市立病院が出来、またさる五月から四億七千万円をかけて近代設備を整えた。一方、近年チッソの体力低下もあって、付属病院は医療設備、体制の面で弱体化した。しかも施設充実、質的向上を図るには巨額の資金を要する。また周囲の状況から充実してゆく積極的意味がなくなっている。



閉鎖の具体案が示されたチッソ付属病院

資金を要する。また周囲の状況から充実してゆく積極的意味がなくなっている。

専門職種は、工場内での吸収は困難なため就職あっせん。その他事務員、助手、運転手は退職勧誘の

なつた。年間赤字は約三千万円。これと工場災害に必要な外科医がいらない。これが会社の閉鎖の理由となっている。病院に働く従業員の身の振り方は医師、看護婦、薬剤師など医療

対象。退職希望者の退職手当は、特別考慮することになっている。現在入院患者四十三人、通院患者百五十八人については、患者と相談して医療費を決めることになっている。閉鎖後は工場内に診療所を置く。

これらの従業員のうち、チッソ新労組三十九人、新日窒労組十人、嘱託十四人（給食婦など）非組合員二人となっており、同労組とも対処方法を検討している。新労は「組合員の生活確保と、工場従業員の健康増進から存続」を主張し、現在のままでは維持困難なら、化血研との提携で血清の製造、ガンセンター、薬の販売、給食センター、託児所などの具体的項目をあげて、病院の多角経営方法を示している。

一方、新日窒労組は「再建合組

化案には人員整理が入っている。赤字は閉鎖の理由にならない。会社は病院事業をやっているのではない」と、強く撤回を要求している。